

自他ともに大切にできる集団作りのための支援の工夫

— インタビューを基にしたリーフレットの作成と活用を通して —

糸井 順子¹ 佐藤 慎二²

Supports for Group Making to Foster Children's Valuing of Irreplaceable Self and Others

ITOI Junko SATOH Shinji

共生社会を形成する上で、障害の有無にかかわらず自分も友達も大切にできる集団作りが求められている。友達を意識し豊かな対人関係の基盤を育む幼児期から小学校1年生にかけての支援の工夫に焦点を当て、教師や保育者にインタビューを行った。抽出した支援をリーフレットにまとめ、活用後の子供たちの変容や効果について追跡調査を行い、リーフレットに示した内容の妥当性を検証した。その結果、集団全体に目を向けていく重要性や、これまでの支援の有用性を確認することで教師や保育者の安心感やゆとりにつながり、子供たちの様子の変容に表れていくことが示された。

キーワード：集団作り、自他ともに大切に、インタビュー、リーフレット

I 問題と目的

2012年、中央教育審議会初等中等分科会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」では、共生社会を目指し「特別支援教育を推進していくことは、子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行うものであり、この観点から教育を進めていくことにより、障害のある子どもにも、障害があることが周囲から認識されていないものの学習上又は生活上の困難のある子どもにも、更にはすべての子どもにとっても、良い効果をもたらすことができるものと考えられる」としている。これまでは障害のある子や、配慮を必要とされる子に焦点を当てることが多かった特別支援教育であるが、本報告では「すべての子ども」に言及している点に大きな特徴がある。自他ともに大切にできる集団作りを考える上でも、特定する子に焦点を当てるだけでなく、その周りにいる子供たちにも目を向け、集団としての環境を整えていくことが「すべての子どもにとってもよい効果をもたらす」ことが示

唆されている。

また、幼稚園教育要領には「一人一人の幼児が、将来、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となること」とあり、共生社会を目指す上で、幼児にとって初めての集団の場である幼稚園や保育所が果たす役割の大きさが指摘されている。

一方、「I市教育振興基本計画」（第3期：平成31年1月）「【方針1】感性を豊かに働かせ、社会の中でたくましく生きていくことのできる子供を育てる」の《目標1》には、「自分を大切にし、他人を思いやる気持ちなど豊かな心を育む」必要があるとしている。

以上のように、自他ともに大切にできる集団づくりは、極めて、今日的な教育課題と言えよう。

そこで、幼稚園・保育所及び小学校1年生の遊び・生活・学習において、自他ともに大切にできる集団作りのために必要な支援の工夫を明らかにする

1 市川市立須和田の丘支援学校

2 植草学園短期大学

ことを目的とし、本研究テーマを設定した。

Ⅱ 研究Ⅰ

1. 目標

集団づくりにおける日頃の具体的な支援や配慮を、教師・保育者へのインタビューによって把握し、よりよい実践の手がかりになるように分かりやすくリーフレットとしてまとめる。

2. 方法

(1) 対象

I市にある小学校（3校）の1学年教師4名及び小学校3校の学区内にある幼稚園教師6名・保育所の保育士7名、合計17名

(2) 検討・分析手順と方法

①時期：2020年7月～8月

②手続き

- 学級作りや集団作りを進めていく中で、「支援が必要な場面」において、個別への支援と併せて周りにいる子供に対してがどのような配慮や支援がなされているかを明らかにするために、質問紙（図1・2）をあらかじめ配付した。
- その回答を基にインタビューを行う。
- 質問紙への回答も踏まえた上で自由に語るこ

を基本に、日頃の子供の様子とそれに対する自身の支援を振り返ることにより、以下の点を把握する。

→「何気ない支援」や、改めて振り返り、成長していた子供の変化。

→「支援が必要な場面」における子供たちに願う姿や支援の意図、具体的な支援の工夫。

→支援場面に寄せる担当者の思い。

○その結果の分析にあたっては、幼稚園教育要領・保育所保育指針や小学校指導要領等における人間関係育成の視点や、「学級づくりガイドブック」（千葉県総合教育センター）等の先行研究を加味し、子供の様子を小学校は7つの場面、幼稚園・保育所は8つの場面に分けて整理する。

③倫理的配慮

本研究は対象となったI市の幼稚園・保育園を管轄する担当部署に文書も添えて説明の上で了解を得て実施された。その上で、各学校の管理職及びインタビューの対象となった保育者・教師には、任意であることを説明の上で、研究ⅠとⅡの内容を示し同意を得て実施されている。また、個人情報扱いには十分に留意し、本論文からは特定できないよう

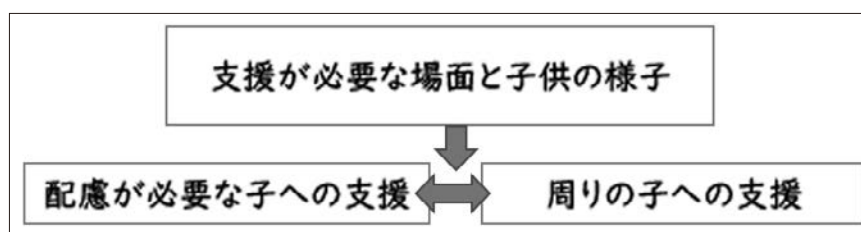


図1 質問紙

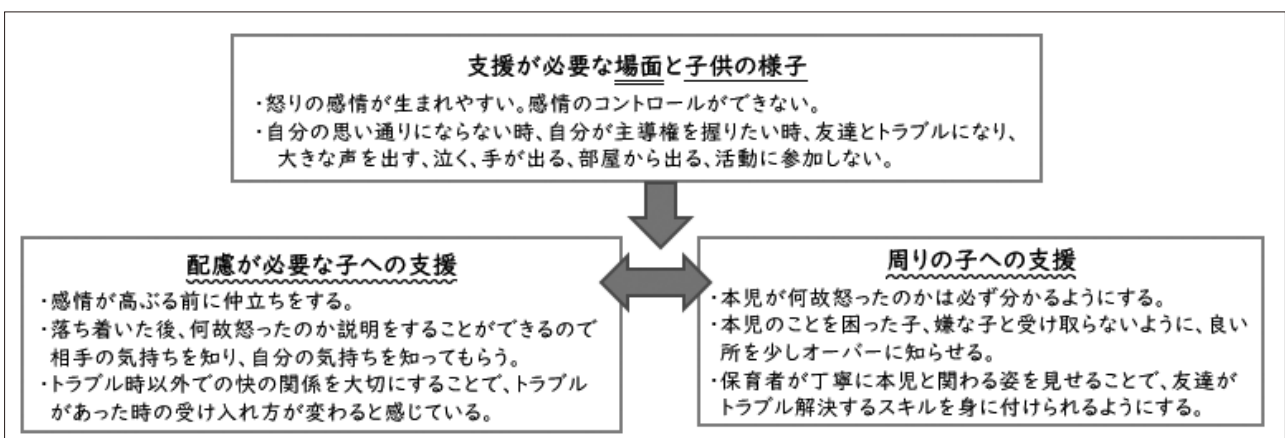


図2 質問紙 (a保育園 年長クラス担任記入：一部)

に配慮した。

3. 結果と考察

表1.2のように整理し、以下を指摘した。

①「配慮が必要な子への支援」だけでなく「周りの子供への支援」について具体的な支援を把握することができた。

表1 インタビューの記録(抜粋) ① 全体への支援(幼稚園・保育園13名と小学校4名より)

	幼稚園・保育園	小学校
全体への支援	<p>良い所探し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どの子にも絶対に良い所があるので、担任の思いとして子供たちに伝える。担任の価値観が子供たちの価値観になる。 →「認める」「良い所」ことを大事にしていく。 →良い姿がクラス全体に広がるように声をかけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段からできている子をほめる。 ○友達の良い所探し。(子供から聞き出す) ○△△君だからこそ、□□さんらしく活躍できるような係活動(役割)を作る。
集団作り	<ul style="list-style-type: none"> ○友達同士の関わり合いややりとりを大切にしていると個別への支援を減らすことができる。 ○子供たちは集団の中で生きていくので、まずはクラス全体が落ち着くようにと考えている。そしてそれが、個別への支援が必要な子にとっても大切になる。 ○一緒にやりたい、入りたいと思った時に、全体が落ち着いていないと入れない。いつでも友達みんなの中に入って活動ができるような集団作りを考え、みんなと一緒にできたという自信につなげるようにしていく。 ○集団が苦手な子供も少しずつ、友達と一緒にできることや、楽しい経験を重ね、一緒だとできることもあるね、楽しいね、という雰囲気を作っていく。 ○毎日、「振り返り」の時間を設けている。子供が発表したことに対して保育者が「どんな気持ちだった?」「どうして楽しかったの?」とプラスの内容に対してなるべく質問を投げかけるようにしていたら、「△△くんが優しくかった」「これから□□さんと遊ぶのが楽しみです」など、聞いている友達のことも考えて相手が嬉しくなるような話をするようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分自身が支援に迷ったり悩んだりした時には、学級の中で一番弱い立場にいる子(障害、身体面、家庭環境等)を大事にするようにしている。担任が誰か子供を排除すれば、見ている子供たちも同じように排除するようになるし、担任が誰かに対して怒ったり注意したりしてばかりいると子供たちも同じような扱いをするようになる。 ○まずは周りにいる子供たちとの信頼関係を築いた上で、学級作りをする。 ○クラス全体が穏やかで、子供たち同士優しい気持ちももてるようにほぼ毎日、読み聞かせをしている。
信頼関係作り	<ul style="list-style-type: none"> ○4月5月はまずは、個別の支援よりもその周りにいる子供たちへの支援に重きを置き、信頼関係を作っていくことから始める。 ○保育者と子供との信頼関係を基に、子供同士のつながりをたくさん経験できるように保育を考えていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の「良い所」を見つけられたらほめる。「すごいね」「よく気づいたね」「気づくあなたが素敵だね」という気持ちで返していく。 ○子供と保護者の味方(理解者)を作る。 ○校内で、担任外の味方(理解者)を作る。担任という一人の人間ではできないことに限界があるので、子供たちに色々な大人を知ってもらい、学校に居場所を作り、また子供たちにとって模範をなる大人の存在を作る。
友達同士の関わり	<ul style="list-style-type: none"> ○友達同士で助け合い、手伝い、譲り合ったりしてほしいので、誰かが頑張っている姿を大きな声でつぶやくようにしている。 ○遅れてきた友達に「待ってたよ」と声をかけてあげられるようなそして「お待たせ」と返答できるような友達同士の関係性を築く。 ○保育者が先に答えを出すのではなく、子供たち同士で考えてもらう。「どう思う?」「どうしたい?」と問うようにする。→子供は、主体的な遊び、活動、子供たち同士の関係性の中で育ち合うことが多い。 ○普段から一人一人が違うこと、違って良い、ということを知らせていく。 ○毎日、「振り返り」の時間を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○普段から△君だからこそ友達の役に立つような、助けてくれるようなことや場面を大切にしている。 →周りの子供たちにとって△君はちょっと乱暴な所があるけど、自分達と違わない、頼もしい存在になる。 ○みんなから「ありがとう」「助かる」と言われるような材料(機会)を用意しておく。 ○授業中離籍しがちな子、集中力が短い子に対して無視をするのではなく、何回か「声をかける」習慣がつくようにする。 ○席替えをするタイミングで、何度かじゃんけんをして勝った方が相手の良い所、自分の良い所を伝え合う。

表2 インタビューの記録(抜粋)② 各場面での支援(幼稚園・保育園13名より)

	個別への支援	周りの子供への支援
感情のコントロールが難しい・友達とのトラブル	<ul style="list-style-type: none"> ○気持ちに寄り添いながらも、泣いたり騒いだりする行為に対してはあまり反応しない。 →「できたね」「上手だね」という楽しいやりとりを増やすようにする。 ○本人の感情に寄り添いながら、原因を伺ってみる。 ○本児の得意な事や好きな事を生かしながら友達と関わるような場面を作るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「騒ぐ」行為に対しては淡々と対応する。 ○本児のことを「困った子」「嫌な子」と思ってほしくないの、保育者が良い所をオーバーに伝えたり丁寧に関わる姿を見せたりするようにする。 ○普段からの友達同士での快の関係性を大事にする。 ○みんなと一緒に活動できない場合は、「みんな苦手なことがあるよね」と本児の状況を伝え「今はできないから待っててね」と話す。
	<p>思い通りにならないとパニック(他害)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○言葉に反応することが多いので、多くの言葉をかけずに指示は端的に伝える。 ○負の言葉や行動にあまり反応しない。 ○楽しい場面での関わりを多くし、信頼関係を築く。 ○本児の気持ちに寄り添いながら手や体に触れ「ぎゅー」と強めの刺激を入れる。 ○活動の切り替え(ザワザワとする状況)が苦手なようであれば、他の子が席に座り落ち着いたタイミングで教室に入るようにする。 ○目から耳からの情報が入りやすく、それに反応してコントロールできずにいる時には、一時的についたてを立てたり、多くの刺激から回避したりするようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本児は物を取ったり、ちょっかいを出したりして反応を楽しむ幼さがあるが、周りの子供供たちはそれに対応しないのでその行動はエスカレートはしなかった。 →友達の反応が面白くないので、いたずらをするのではなく、「遊び」に入れてもうようになっている。 ○本児の大きな声や騒ぐ行動に、驚いたり悲しい思いをしたりしたのであれば、その気持ちを受け止めた上で、本児の気持ちを代弁して伝える。 ○友達に手を出す場合は、周りの子供が繰り返し痛い思いや嫌な思いをしないように、環境を整えたり大人が間に入ったりして周りの子供が安心できるようにする。
負けることが苦手	<ul style="list-style-type: none"> ○参加するだけでなくゲームを客観的に見る機会を作り「悔しいけど、負けることもあるよね」と伝えていく。 ○パニックになっている場合は、少し落ち着いた所で「どんな気持ちだった?」と聞き、「悔しかった」「嫌だった」など自分の気持ちを言葉にして伝えることができるようにしていく。 ○ゲームの中で本人が活躍できるような役割を用意し、勝てなくても満足できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本児ができることや得意なことを普段から取り上げて全体に伝える。 ○本児の気持ちを代弁し「負けたらみんなも悔しいよね、そんな時に友達にどんな言葉をかけてもらったら嬉しいかな?」と、相手の気持ちになって考えたり、意見を出し合ったりする投げかけをする。 ○ペアを替えたり、グループを替えたりして、勝ったり負けたりする経験をしてゲームの面白さを感じられるようにする。
切り替えや終わりが苦手	<ul style="list-style-type: none"> ○本児にとって分かりやすい絵やマーク、具体物を使って、終わりを伝えたり、見通しがもてたりするようにする。 ○「終わりだよ」ではなく、「次は△△だよ」という伝え方をする。 ○「終わり」のタイミングを、本児と相談したり、選択肢を提示したりするなどして本児が決めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「終わり」や「切り替え」のタイミングはクラス全体に分かりやすく明確に伝え、表記しておく。(時計の数字・タイムタイマー、音楽など) ○周りの友達の様子を見て、片付けをするのか、何をするのかを気づくこともあるので、どこに何を置くのか、集まる場所、座る位置など教室をどの子にとっても分かりやすい場所にする。
こだわりが強い	<ul style="list-style-type: none"> ○こだわりがどこからくるのかを探る。 ○本人に確認しながら、こだわっている物を少しずつ減らしたり、他の遊具を提示したりして広がるようにする。 ○予定変更が苦手であれば、事前に変更する部分や、何をするのかできるだけ具体的に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○こだわっている遊びやグッズ、知識を部分的にでも強みに変える。(△△博士、□□コレクション) ○本児のこだわりに対してこだわりすぎず、他の面での良さや、柔軟に捉えられる面を見てクラスに広げる。
発語が少なく・発達がゆっくり	<ul style="list-style-type: none"> ○比較的言いやすい言葉(「いいよ」「入れて」など)から覚えて、話すことや言葉を使ったやりとりに自信がもてるようにする。 ○具体物一つずつ提示していく。(例えば、下着→ズボン→靴下→上履き) ○「幼さ」が顕著に見られる部分(理解力、身体面、行動面)を探り、それに合わせて分かりやすくしたり、やりやすくしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本児が上手く伝えられない分、本児の気持ちを代弁して友達に伝える。本児の気持ちを受け止めながらかわらうとしている姿を認めていく。 ○顕著に集団から遅れたり、苦手だったりする部分に対して、「△△ちゃんは今、勉強中なんだよ、頑張っているんだよ」と伝えていく。 ○少し特別な場面では、本児が早めに行動することや片付けが苦手なことを予め伝え、理解してもらおう。

苦 手 集 ま り が	○絵と文字を使った視覚的に分かりやすい表示でスケジュールと一緒に確認する。好きな事を目標に「△△したら□□しようね」という見通しがもてることで、苦手な活動にも嫌でなく参加できるようにしていく。	○担任と本児とのかかわりをモデルとして見せていき、本児の良い所を普段の生活や遊びの中で伝えていく。
----------------------------	--	---

②普段から行っている集団全体への支援とともに、教師や保育者が抱えている思いが「支援が必要な場面」にも反映され影響を与えていることが明らかにされた。

③特に小学校では、学級経営のための支援や配慮に重きを置いていて、それを基盤に個別に対応しているということだった。

④学習指導要領等でも指摘されるように、教師・保育者の子供への接し方から、子どもたちは様々なことを学ぶ。それを踏まえての支援の必要性が改めて示された。

以上を踏まえて、図3のリーフレット「幼稚園・保育所版」をまとめた。なお、誌面の関係上、表紙・裏表紙は割愛する。

Ⅲ 研究Ⅱ

1. 目標

リーフレットを活用し実践することでの子どもたちや集団の変化及び教師や保育者が感じた手応えと意識の変化からリーフレットが提案する支援の有用性や活用性を実証する。

2. 方法

(1) 対象：研究Ⅰと同様（回収率100%）

(2) 時期：2019年8月～11月

(3) 手続き

①リーフレットを配付、趣旨説明をし、それに基づく可能な範囲での取組を依頼する。

②参加観察から把握された子供たちの様子をエピソード記録する。

③その結果及び教師や保育者が得られた手応えや意識の変化、集団や子供たちの変化をアンケート調査（図4）及びインタビューを行う。なお、表3は「第一印象」調査である。

④以上を踏まえ、リーフレットの有用性や活用性を検証する。

※質問は以下①～⑤です。

① リーフレットを見た第一印象はいかがでしたか。（該当する項目に○をつけてください。）
 ア とても分かりやすい イ 分かりやすい ウ 分かりにくい エ とても分かりにくい

② ①の質問で、ウとエを付けた先生に質問です。
 どのような点でそう思われたか、具体的に記入下さい。（文字の大きさ、数、レイアウトなど）

③ 参考になった支援や実践できそうな支援や取組を挙げて下さい。（いくつでも可）

④ リーフレットを見て実践した支援や取組があれば、ご記入ください。（いくつでも可）

⑤ それによって子供たちや集団・学級の変化があればご記入ください。




図4 アンケート用紙

表3 「第一印象について」の回答

ア とても分かりやすい 11
 (→子供の特徴ごとに分かれていてとても分かりやすい。)

イ わかりやすい 7(内容は良いが、字が小さい。)

ウ 分かりにくい 1 (→文字が小さい)

エ とても分かりにくい 0

幼稚園・保育園版

友達とのトラブル



- 〈個別へ〉
- 落ち着いた所で、双方の話聞き、トラブルとなつた原因を探る。
 - 繰り返すような場合は、仲介役となつて事前止めるようにする。

〈周りの子へ〉

- 本人の気持ちを周りにいる子供たちに伝える。(代弁する)
- 本人の気持ちを受け止めながら関わろうとしていた姿を認める。
- 普段からお互いの良い所を伝え、楽しい関わりをもてるようにしていく。
- 本人へ丁寧に丁寧にトラブルを解決する方法を提示する。

発達がゆっくり(発語が少ない)



- 〈個別へ〉
- 「いいよ、いいよ」から話す機会を増やす。
 - 「伝わった」「できた」という自信がもてるような機会を作る。
 - 言い直しはせず、「そうだね、○○だね」と受け止めるようにする。

〈周りの子へ〉

- 本人が上手に伝えられない分、本人の気持ちを代弁し伝える。
- 今は、「勉強中なんだよ」と本音が漏れつつあることを伝える。
- 友達と関わろうとしている姿を認め、子供同士の仲介をする。

集まりが苦手(じっとしてられない)



- 〈個別へ〉
- 椅子やマットなど本人にとつて分かりやすい居場所を用意する。
 - ここだけはいてほしい、という(短めの)時間を決めて守れらたら「できたね」と伝えていく。
 - 活動中に動ける保障(役割や動いても良い時間)を設定する。

〈周りの子へ〉

- いっしょにふらふらしたりその場から離れたりする子供に振り回されることなく、全体の活動を進める。
- 全体の活動に戻ることができた時には目や言葉で合図を送り、「待ってだよ」「お待たせ」と友達同士で言い合えるような雰囲気を作る。

負けることが苦手



- 〈個別へ〉
- ゲームを客観的に見て、勝っている人負けている人がいることを伝える。
 - 本人が得意なことや、できる役割を作り勝ち以外で満足感を得られるようにする。

〈周りの子へ〉

- 普段から本人の得意な事、すごい所を見つけてみんなに伝えるようにする。
- ゲームの中で参加するみんなが活躍できるような役割を設定する。
- 「対」や「ペア」を変えて勝ち負けだけではなく、お互いの面白さを経験できるようにする。

集団における支援



- 「頑張っている姿」「素直な姿」を認め、「みんなの事が大事だよ」という気持ちを伝える。→良い姿をクラス全体に広げる。
- 友達同士で、良い所探し→「認める」「伝える」機会を作る。
- まず、全体への支援に重きを置き、子供たちごまごま子供同士の関わり方になる。
- 大人の子供への接し方や価値観がそのまま子供同士の関わり方になる。
- 一緒にやりたいと思えるような、参加しやすいような雰囲気を作っていく。
- 一人一人に得意なことや好きなことが生かせるような役割を作るようにする。
- 子供同士の関わりの中で育ち合うことも多いので、子供同士で話し合ったり、考えたりする機会を大事にする。

感情のコントロールが難しい



- 〈個別へ〉
- 負の言葉や行動にはあまり反応しない。
 - 正の行動の楽しい関わりを増やす。
 - 怒りなのか、悲しいのか、苦しいのか、「怒りやすい」「原因を様子から探ってみる。
 - 悔しかったね、という気持ちを受け止め手を握ったり、体を抱きしめたりして、きゅーという強めの刺激を入れる。

〈周りの子へ〉

- 友達から「困った子」「嫌な子」と思われないように、「なぜ怒ったのか」理由を伝える。
- 本人の気持ちを代弁し、友達の良いや驚いた気持ちを受け止める。
- 普段から本人に丁寧にトラブルを解決する方法を提示する。

こだわりが強い



- 〈個別へ〉
- こだわりがどこ(不安・恐怖・怒り・困り感・興味など)からきているのかを探る。
 - 日程の変更や不安定になりそうな要因があれば事前に分かりやすく伝えておく。
 - こだわりについている事柄を部分的にでも生かして役割や係の仕事にする。

〈周りの子へ〉

- 支援者は、本人のこだわりに対してこだわりすぎず、他の面での良さを見て、クラスに広める。
- こだわることや特異なことではなく「みんなも気になることや、大事な物はあるよね」ということを伝えていく。

片付け(身支度)が苦手



- 〈個別へ〉
- 様子を見たり、本人に聞いたりしてどこでつまづいているのか、なぜ苦手なのかを探る。
 - 本人にとつて分かりやすい絵やマーク、写真や具体物を提示する(薄す)。
 - 見通しがもてるように、やる事を順番に示し手がかりとなる活動を最後に設定する。
 - 音や刺激が苦手な場合は、ザワザワとする時間帯を選び、落着いて取り組めるようにする。

〈周りの子へ〉

- クラスのみんなが何をどこに片づけるのかを分かるように、自分で行うことが出来るように、教室環境を整理する。
- 普段からおもちゃや本を大切に扱い、元の所へ片づける習慣をつけていく。
- 周りの子が刺激となりやすい場合は、「終わるまで待っていてあげようね」とうねと伝えておく。

終わり(活動の切り替え)が苦手



- 〈個別へ〉
- 終わりの時間を数字や音を使って本人の分かりやすい方法で事前に伝え確認しておく。
 - 「終わり、よりもその次に何をやるのか、どこに行くのかが伝える。
 - 進捗度を提示して「どっちが「どうする?」と聞いて、本人が終わりを決められるようにする。

〈周りの子へ〉

- 活動の「終わり」や「切り替え」がクラス全体に分かりやすいように終わりを明確(クイマーや音楽)にし、活動の始めに伝えていり明記したりする。
- 周りの友達の様子を見て何をやるのか、分かっていたり、気持ちを切り替えたりすることもあつたり、どの子にとつても分かりやすい環境を作っていく。

図3 「幼稚園・保育所版」リーフレット

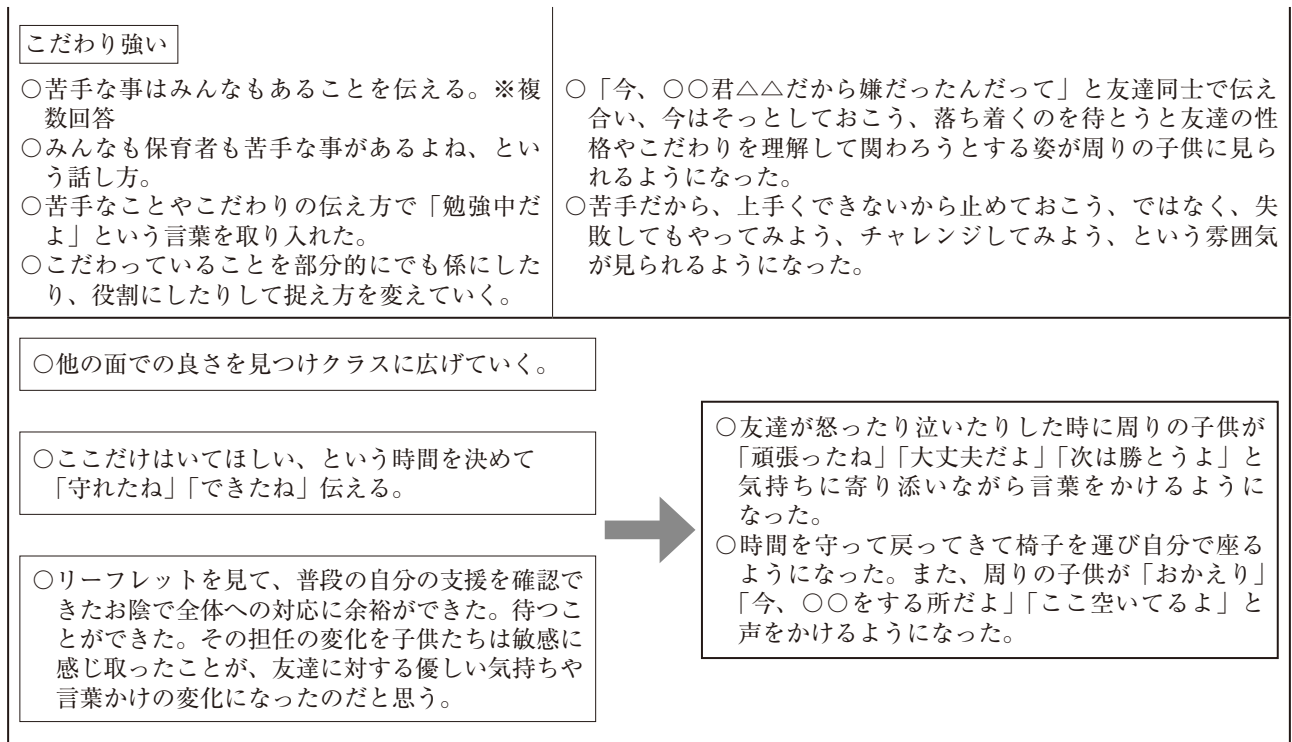
3. 結果と考察

整理し、以下を指摘した。

アンケート及びインタビューの結果を表4のように

表4 質問「リーフレットを見て実践した支援や取組→変化した子供や集団の変化」の回答

実践した支援	それによって変化した子供や集団の変化
<p>☆リーフレットを通して意識できたこと☆</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでに実践していたことだが、改めて意識して行うようにした。 ○普段から心がけていることもあったので、実践していることでもあったが、リーフレットに記載があり（普段の支援が）「間違っていた」と思えた。 ○集団と本人と周りの子供への支援が一枚で見て分かる、それぞれの気持ちに寄り添える。こんなシートが一枚あったら救われる、という安心感があった。 	
<p>自分も友達も大切にできる集団作りのために</p> <ul style="list-style-type: none"> ○その子だけでなく全体への支援を大切にすること。 ○普段からみんな事が大事だよ、という気持ちを送る。 ○どの子でも「頑張っている姿」「素敵な姿」を大きな声をでつぶやく。※複数回答 ○一人一人の個性を認めていくこと。 ○子供たち同士で育ち合うことが多いので、子供同士で考える、話し合う機会を大切にすること。 ○友達同士で良い所探し。 	<ul style="list-style-type: none"> ○良い意味で、その子の行動を気にしすぎず自然に関わるようになった。 ○友達同士で認め合う機会を意識的に作ったことで「○○ちゃんすごいね」「練習頑張ったから上手くなってるね」など良い姿につながった。 ○子供の視線が「何で？」ではなく「できないなら手伝ってあげよう」という気持ちに変わってきた。一人の子として認め、受け入れられるようになってきた。手を差し伸べることが増えた。 ○目に見える大きな変化はないが、以前より子供たち一人一人がクラスの友達を仲間としてありのままの姿を受け止めてくれていると感じる。 ○大きな変化はまだないが、以前は友達が間違えていることをしていたら、「ダメだよ」と強い口調で言っていたのが、「○○するんだよ」などと優しく伝えるようになってきた。 ○教師が△△君のことを認めていることで、他の子どもにも良い影響を与えた。
<p>△△君だからこそ活躍できるような係活動を作り、任せていく。</p>	
<p>友達とのトラブル</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別と周り子への対応の全て ○本人の気持ちを周りにいる子供たちに伝える。（代弁する）※複数回答 ○落ち着いた所で双方の話を聞き、トラブルとなった原因を探る。 ○悔しい、辛いという気持ちを受け止め「次は言葉で伝えるようにしてみようよ」と話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達から話しかけられるようになった。 ○友達やトラブルや聞くこと、教える事など優しく子供同士で伝え合う姿が少しみられるようになった。 ○児童から「なぜ席離すのか、あなたや周りの子供が集中できるようにするためだよ」と話をしたところ、漢字テストの時に「他の子のテスト見ちゃうからこっちでやっていい？」と自分で選択をする子がいた。
<p>負けることが苦手</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲームを客観的に見て、勝っている人、負けている人がいることを伝える。 →「負けることが苦手だから」と避けるのではなく、経験をすることを大切にすること。 ○子供たち同士で育ち合うことも多いので、子供同士で考える、話し合う機会と大事にする。 →「勝った時、負けた時、どんな言葉をかけてもらったら嬉しいか」をクラスで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会の紅白リレーで個々の勝負、チームとしての勝負から勝つことと負けることを経験する。それぞれがどちらの気持ちも経験した上で、子供同士で言葉をかけ合うことで、負の気持ちを引きずることが減った。（大人の言葉かけよりも断然効果的）「頑張ったね」「次また、やろうね」「すごいね」「負けちゃったけど、足速かったよ」など子供たちのお互いへの自然な言葉かけが増えた。
<p>感情のコントロールが難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○感情のコントロールが難しい子への対応の全て。 ○普段から丁寧に関わり、子供同士でトラブルを解決する方法を提示する。 ○友達が「困った子」「嫌な子」と思われないように「なぜ怒ったのか」理由を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○（担任が）本人への丁寧に関わる姿を見せることで、周囲の子も同じように丁寧に接してくれるようになった。 ○何が嫌だったのか、怒った原因を友達に聞いてみて、お互いの気持ちを伝え合ったり、子供たち同士で話し合ったりするようになった。



(1) 支援の汎用性とその共有化の必要性

リーフレットに挙げられている支援については、全ての内容に対して「参考になった」「実践した」という回答が得られた。リーフレットにはそれまでは自園や当該保育者・教師が取り組んだことのない支援や考え方が示されていたことが挙げられる。すなわち、それを取り入れて実践したことで、これまでとは違う子供達のいい姿が見られたということである。

あわせて、リーフレットを読んだことで「これまで取り組んでいた実践に間違いはなかった」という安心感やゆとりがより前向きな取組への効果を有していることが示された。普段の自分の支援を確認できたり、自信をもったりできたという想定外の成果である。多忙感を極める保育・教育現場にあって、自身の実践や考え方を確かめる機会意外に少なく、孤立的な取組を強いられている状況も示唆された。

各園や保育者・教師の実践とその背景にある考え方には共通性も違いもある。それらを共有することで、よりよい保育・教育実践の創造に結びつくと考えられる。

今回はリーフレットという形ではあったが、保育・授業参観も含めた実践交流による学び合いの機

会とその共有化の必要性・重要性が示されたというよう。

(2) 集団作りへの関心の高さ

リーフレットを参考に実際に取り組んでみた支援で最も多かったのは「集団作り」にかかわる支援であり、その効果も高かったことが示されている。

幼稚園教育要領解説には「協同性が育まれるためには…(中略)…他の幼児と一緒に活動する中で、それぞれの持ち味が発揮され、互いのよさを認め合う関係ができてくるのが大切である。…(中略)…一人一人の自己発揮や友達との関わりの状況に応じて、適時に援助することが求められる。相手を意識しながら活動していても、実際にはうまくいかない場面において、幼児は、援助する教師の姿勢や言葉かけなどを通して、相手のよさに気付いたり、協同して活動することの大切さを学んだりしていく」と示されている。

しかし、「では、どうすればよいのか？」までは提示されていない。そこに工夫が求められる。現実には極めて動的・複合的に展開される集団での保育・教育場面においては、リーフレットが提案するようなキーワード的な示唆が保育者・教師の支援の工夫にも反映されやすいことが示されたといえよう。

Ⅳ 研究のまとめ

幼稚園・保育園や小学校の教師や保育者にインタビューやアンケートを行った結果、個別に対する支援やある場面にだけ行う支援だけでなく、普段から何気なく行っている集団全体における支援、取組をより具体的に把握し、リーフレットとして示すことができた。

また、リーフレットを活用した実践について質問紙調査とインタビューにより追跡調査を実施した結果、リーフレットが提案する支援の必要性や妥当性を示すことができたと考えられる。

今回は、幼稚園・保育園各3園、小学校3校、あわせて17名を対象とする研究であり、事例総数は必ずしも十分ではなかった。今後はリーフレットをI市を中心に配付し、さらに検証を継続していく必要がある。

参考文献

- 赤坂真二 (2011) : 『『気になる子』のいるクラスがまとまる方法!』. 学陽書房
- 千葉県総合教育センター (2015) : 『学級作りガイドブック—好ましい人間関係を育む学級をめざして—』
- 中央教育審議会初等中等教育分科会 (2012) : 『共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (報告)』
- 福岡寿 (2015) : 『発達障害の子がいる保育園での集団づくり・クラスづくり』. エンパワメント研究所
- I市教育委員会 (2019) : 『市川市教育振興基本計【第3期】』
- 文部科学省 (2017) : 『小学校学習指導要領解説』
- 文部科学省 (2017) : 『幼稚園教育要領解説』
- 佐藤暁 (2006) : 『困り感に寄り添う支援の実践』. 学習研究社
- 佐藤慎二 (2015) : 『今日からできる! 通常学級ユニバーサルデザイン—授業づくりのポイントと実践的展—』. ジアース教育新社
- 佐藤慎二 (2019) : 『授業で行う合理的配慮のミニアイデア』. 明治図書